

2025年度 自己評価結果公表シート

学校法人 常楽寺学園 ほづみあそびまなびの森

1. 本園の教育目標

[保育目標] 自分らしさを発揮しながら 豊かな創造性や感性をもち やろうとする力や向かう気持ち
あきらめずに達成する力が強く 人とつながる喜びを知る人になる

[保育方針] そのままの姿を受けとめよう たくさん抱きしめよう たくさんの失敗ができるところにしよう
「ホンモノ性（学びの対象・人としてのあり方）」を大切にしよう
すべての人の違いは豊かさであり 同じ価値の存在として認めよう
一人ひとりの個性を尊重しよう

[まわりの大人が大切にしたいこと]

子どもを中心として それを取り巻く大人たちが 支えや学びの共同体になろう
子どもを生まれた時から 幅広い分野で発達する 生きた人間として見よう
子どもたちに人生の魅力を語ろう
子どもの成長や発達を喜び合い 協力し合いながら成長しよう
大人も子どもも 豊かな安全基地をもち 愛着を安定させよう

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

園地拡張及び新園舎を建設することにより「探求プロジェクト型保育」の充実や自園調理の実施、長時間保育や2号認定の受け入れを豊かにする。また、保育の長時間化による愛着不安への対策や配慮を目標とする

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

【前年度結果報告】

評価項目		取 組 み 状 況
園庭環境の整備	B	土壌改良までは進むことが出来なかったため、専門家の方にもご協力を頂き、充実させていきたい。
新しい幼児教育に向けて 取り組む	A	「探求プロジェクト型保育（園独自）」を掲げて保育・教育を行ってきたが、異年齢保育や好奇心、探求心を育むために、生活を基本として教育スタイルに移行する。また、年長の空間を用意することで、子ども達それぞれがプロジェクトを進める姿が見られた。
文化的な直接体験について	A	日本人以外のスタッフも雇用し、文化の違いや言葉、コミュニケーションの違いなどのきっかけづくりをしてきたが、子ども達の中には自分から話しかける姿も見られるようになった。「英語を学ぶ」から「英語での会話を楽しむ」に少し進めたように思う。
給食の質向上を図る	A	食育活動や出汁などの「うまみ」にこだわった給食づくりを心掛け、評価の改善にもつなげることができた。味噌づくりについては、イベント的な要素が多かったため、大豆の変化や熟成など、もう少し日数をかけて楽しみ、気付く方法を検討したい。
保護者同士が関わりあえる 場所づくりについて	A	親睦会、もちつきなどの行事、味噌づくり、おやじの会など保護者の方々にとって関わりあえる居場所づくりを実施することができた。

評価 (A・・・十分に成果があった B・・・成果があった C・・・少し成果があった D・・・成果がなかった)

4. 今後取り組む課題

課 題	具体的な取り組み方法
園庭環境の整備	色あそびや草木あそびなどの環境を充実させたい。また、樹木や草木の育ちを良くするために、土壌改良などを行う。
新しい幼児教育に向けて 取り組む	学年での活動や部屋づくりを行い、より「探求プロジェクト型保育（園独自）」ができるような環境づくりを行う。異年齢での活動も取り入れ、小さな家族のようなグループづくりを行う。また、問題を自分達で解決する経験や自分で自分のことを決める経験など、生活を基本とした教育スタイルを大切にしていきたい。
文化的な直接体験について	日本人以外のスタッフとの関わりのなかで、文化の違いや言葉、コミュニケーションの違いなどのきっかけづくりを充実させる。子ども達から話しかけたり、関わりを持てるように仕掛けを考えたい。
給食の質向上を図る	食育活動や出汁などの「うまみ」にこだわった給食づくりを心掛け、評価の改善にもつなげることができた。味噌づくりについては、イベント的な要素が多かったため、大豆の変化や熟成など、もう少し日数をかけて楽しみ、気付く方法を検討したい。
長時間保育への対応	預かり保育や2号認定の希望者が年々多くなっており、子ども達の愛着も不安定になる様子が見られるため、ゆったりとくつろげる環境やのびのびと遊べる環境づくりを検討していきたい。また、安全面も最重要であるため教職員間での情報共有やしっかりと見守りができる定員設定の検討、教職員の人員確保に努力したい。

6. 学校関係者評価委員会の評価

昨年度末に学校関係者評価委員会を開催することができ、園の教育内容について様々な意見交換を行うことができた。

7. 財務状況

公認会計士が所属する会計事務所より、適正に運営されていると認められている。